

指定校番号	28054	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	安芸高田市立小田東小学校	校長	信末 実智則	生徒指導主事	佐々木 祐司
-----	--------------	----	--------	--------	--------

取組事例名 『ボランティア清掃』

取組のねらい『キーワード 自己肯定感』

地域の方々が利用される施設を感謝の気持ちを込めて清掃することを通して、地域の一員としての自覚ややり遂げることで自己肯定感を高める。

取組の具体的内容『キーワード 必然性』

児童の「地域の役に立ちたい」という願いの中で、4月にボランティアクラブを結成した。「地域の方にゲストティーチャー等でお世話になっている。その感謝の気持ちを込めて、自分たちでできることは何か」と投げかけ、ボランティアクラブで活動内容を考えた。

話し合いを進める中で、総合的な学習で「甲立駅を活性化しよう」と学習を進めている4年生から、「甲立駅に取材にいった時、たばこやおかしの袋が落ちていた。甲立駅の清掃をしてはどうか」という意見が出された。

そこで、町の出入り口にもなっている「甲立駅」を清掃したいということになった。そして、児童会にも協力を求め、甲立駅を清掃することに決定した。

取組の課題・創意工夫『キーワード 主体性』

昨年度ボランティア清掃に参加した児童会役員やボランティアクラブの児童が体験を話し、全校（対象3年～6年）に参加を呼び掛けた。

「駅を利用する人から、あたたかい声をかけてもらい、やってよかった。」「きれいになったトイレを見て気持ちがすっきりした。」等の感想を聞いた他学年の児童が「やってみたい」と参加を希望し、予定を上回る児童が活動に参加することになった。

その後、児童会役員とボランティアクラブが清掃計画を立てた。駅の内外を掃除することや掃除道具の準備、人数配置、3年生の掃除場所への配慮等を主体的に考え、ボランティア清掃を実現していった。



取組の成果（効果）『キーワード 貢献する意欲』

やらされる清掃ではなく、自発的な活動であり、懸命に清掃を頑張った児童の「楽しかった。」「きれいになった。」「やってよかった。」という感想を広めていくことで、自己肯定感の育成はもちろん、他の児童も「やってみよう。」という意欲をもちはじめた。

学校評価保護者アンケートの「子どもは、進んで自分の仕事や手伝いをしている。」という項目においても、肯定的評価が1学期 73.6%から2学期 77.9%と向上している。



今後の展開『キーワード 広げる 伝統』

平成 28 年度 4 月にクラブ活動の一つとしてボランティアクラブを結成した。このクラブは、学校内外のボランティア清掃や学校の遊び道具の片付け・整理を行っている。自分たちで活動計画を立て、主体的に活動を行っている。この活動を、より日常的な活動に広げていく。



平成 29 年度 3 月末で小田東小学校は統合され、甲田小学校になる。これまでのボランティア活動を他校にも広げ、統合された甲田小学校でも地域に貢献する活動を伝統にしていく。



他校へのアドバイス『キーワード 工夫』

児童の「ボランティア清掃をしよう」とする意欲や方向性を、クラブ担当者と児童会担当者が連携をし、見通しをもって、活動につなげていくように支援を行った。

全校朝会で全校児童に呼びかける機会を設けることで、ボランティアの輪が広がっていくなど活動内容の工夫を行った。

本校は「学びの変革」にかかわり、児童が「やってみよう。」「やらなければいけない。」等の意欲や必然性をもたせる課題設定の工夫を国語科、総合的な学習の時間を中心に行ってきた。この取組とつなげて、今年度のボランティア清掃では、地域への貢献や学習の中で気づいたことを課題にした。

課題解決の方法を児童に考えさせ、主体的な活動になるように仕組んでいった。これらの工夫が「自分たちでなんとかきれいにしたい。」という気持ちにつながっていったと考えている。